

琉球国祭り太鼓ブラジリア支部創立10周年記念イベント

—ゆいま—る Um laço infinito—

佐藤悟大使挨拶（案）（2016年11月26日）

皆さん、こんにちは。

駐ブラジル日本国大使の佐藤悟でございます。私は、約10日前にブラジルに着任いたしました。早々にこのような記念すべきイベントに参加する機会を得て嬉しく思います。

このたび、琉球国祭り太鼓ブラジリア支部が、創立10周年を迎えましたことに、心からお祝い申し上げます。ハラ支部長をはじめとする琉球国祭り太鼓ブラジリア支部の皆様、中西部日伯協会連合会のスギノ会長と連合会の皆様、そしてバルジェン・ボニータ日伯文化体育協会のニホ会長と協会の皆様の御尽力により、本日のイベントが、ブラジル各地から多くのアーティストの参加を得て、かくも盛大に開催されることをお喜び申し上げます。

琉球国祭り太鼓は、1982年に沖縄県で創設され、ブラジルには、戦後移民の故浦崎直秀（うらさきなおひで）氏により伝えられたと承知しています。ブラジル本部は、1995年に設立され、現在では全土に10の支部があり、この国には世界で最も多い約700名の琉球国祭り太鼓愛好家がいらっしやると聞いています。浦崎氏は、ブラジル本部設立の際、琉球国祭り太鼓を通して、日本文化をブラジルで普及し、礼儀・規律といった日本の価値観を次世代に伝えることを掲げられました。こうして、ブラジル社会において日本のファンが増え続けていることに、ブラジル琉球国祭り太鼓は大変に立派な役割を果たして来ています。

今回のイベント名に掲げられている「ゆいまーる」とは、沖縄の言葉で助け合いの精神を指します。この言葉の下、本イベントを通して、琉球国祭り太鼓愛好家同士の絆、会場にお越しくくださった皆様の絆、そして日本とブラジルの絆が更に深まることを祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

どうも、ありがとうございました。